東京白楊だより

創刊号

昭和53年11月25日

函館中部高等学校

白楊ヶ丘同窓会東京支部

母校を慕う同窓生の善意と若い卒業生のバイタリティを

白楊ヶ丘同窓会東京支部長　斎藤　鎮雄

昨年十一月二十二日、白楊ヶ丘同窓会東京支部の設立総会で初代支部長をお引き受けしてから、はや一年が過ぎ本日第二回総会を迎えるに至りました。

設立総会は、先輩各位が築いた伝統ある「在京函中会」を母体として、世代を超えた永続性ある交流の場としての同窓会支部を設立することでありましたが、当日三百六十六名もの多数の参加を見、盛況裡に終始いたしましたことにつきまして、参加者ならびに会の運営に当たられた各位に、あらためて感謝申し上げる次第であります。

申すまでもなく、東京は政治・経済・文化の中心であり、これを取り巻く首都圏には、二千人を超える同窓生が活躍しているものと推定されますので、これら同窓生の士が一人でも多く組織されて相互の連帯が強化されることは、白楊ヶ丘同窓会にとって極めて大きな力となる筈であります。その意味からも設立総会に多数参加されたことは意義深いことであり、年々歳々この数の増えることを念願するものであります。

支部の運営につきましては、事務所も決定し、昨年の総会での三役決定に引き続き、各期から理事をお願いしてご承諾いただき、常任理事も決定いたしましたので、理事会を中心にひとつひとつ積み重ねて参りたいと存じます。今後の具体的問題としましては、各期毎の在京同窓生の把握、特に四十年代以降の卒業生の組織化があり支部会員名簿の作成が課題となって参りましょう。また、母校にあります本部との連繋を具体的にどのように行なうのか、と言った問題もあろうかと存じます。

いずれにいたしましても、人間形成のある意味での原点とでも言うべき母校と、これを慕う同窓生の善意がある限り、そして昨年の設立総会に見せた若い卒業生の熱意とバイタリテイが続く限り、われわれ白楊ヶ丘同窓会東京支部の前途は正に洋々たるものであることは疑いありません。同窓生各位の絶大なるご協力を期待する次第であります。

「東京白楊だより」発刊を祝う

白楊ヶ丘同窓会長　笹島吉平

「東京白楊だより」を創刊するとのこと、まさに快挙です。心からお祝いします。

従来から在京函中会が盛大に催されていることは聞いていましたが、昨年の白楊ヶ丘同窓会東京支部設立に出席し、全共連ビルの大広間を埋めた大集団の熱気に感激しました。

東京支部設立は、美馬前会長多年の念願であったのですが、設立準備世話人の方々のご苦心と会員の母校愛によるもので、深く感謝すると共に敬意を表するものであります。

「東京白楊だより」はこの熱意と創造力を刷り込んだ生きものであります。

こうした東京支部の活動ぶりは本部たる地元同窓会に対するご鞭撻でもあります。今後は同窓生すべてに「白楊だより」と共に「東京白楊だより」をお届けしたいものです。

それにつけても、札幌支部の設立がのぞまれます。すでに北海道庁職員函中会など大集団の函中会が結成されました （2頁へ続く）

〝青春の薫にしるく……人生の花ほころび……〟

第一回白楊ヶ丘同窓会東京支部総会開催

会場のライトが一瞬消え、入口にスポットライトがあてられた。出席者全員起立するなか、〝玄冥の北の一道……〟が演奏され、同窓会旗が高木隆氏（昭和42年卒）の手に捧げられて入場する。正面へ進み、壇上で待ちうける北原耕太郎氏（昭和33年卒）へ手渡された。高く鳴り響く拍手。会旗は、スピーカーズテーブル横の脚に立てられた。

かって、何万もの若者たちの瞳を集めた函館中学校校旗が、同窓会旗として、再び同じ瞳に注目されている。その紫紺の地色は、いま色あせたとはいえ、老兄たちの目には彼らが紅顔だった頃と同じあざやかさで映っているにちがいない。それぞれの思いが、年月のへだたりを越えてしばらく交錯した。旗を見つめて、涙ぐむシニアもいた。

総会司会の伊東克郎実行委員長（昭和21年卒）が開会を宣言、全員で同窓会歌を斉唱して、白楊ヶ丘同窓会東京支部設立総会が始まった。昭和五十二年十一月二十二日午後六時、この日、東京は快晴だった。

出席者四百名の盛会

総会出席者数三百六十六名、会場の千代田区平河町全共連ビル六階の松屋サロンは、人いきれでいっぱい。大正6年から昭和44年までの函館中学校・函館中部高等学校卒業生（在京）が一堂に会した初めての総会だ。当初に欠席を通知してきた同窓生や、人づてに聞いたという同窓生がかけつけ、幹事は椅子を探して走りまわる光景も見られたほど。

そんななかで北川有光設立準備副委員長（大正13年卒）が、この会を開催するに至った経過を説明する。一語一語、しっかりと話す大きな声が会場にしみ渡る。そのあとで、斎藤鎮雄氏（大正8年卒）を万場一致で東京支部長に選び、次いで斎藤氏の指名により、左記の方々を役員に任命した。

白揚ケ丘同窓会東京支部役員

支部長	斎藤鎮雄氏	（大正8年卒）
副支部長	北川有光氏	（大正13年卒）
〃	西原林之助氏	（昭和11年卒）
会計	堤明司氏	（〃 14年卒）
〃	三国比左男氏	（〃 24年卒）
〃	大河原雄三氏	（〃 2年卒）
監査	福津達男氏	（〃 25年卒）

函中を卒業してから五十八年の年月を経たという斎藤支部長が、そのあいさつで〝人間形成のうえで大きな影響を与えた母校は、有形無形でわれわれの人生と共にある〟と述べたが、これは、戦前・戦中・戦後を問わず、本日参加したすべての卒業生が等しく感じるところだったろう。同じ学び舎で学んだ老・壮・青は、同じ歌をうたって、その共感を分かちあい、世代の差を埋めたのである。

この日、函館からわざわざ上京された横田忠康先生は、学校長代理として、母校の後輩が、勉学にスポーツに活躍している姿をレポート、また笹島吉平同窓会長が東京支部設立へ祝辞を述べた。

総会のなかで、函中の歴史を如実に示したのは功労者の表彰だった。戦前から活動を続けてきた阿部良平氏（大正6年卒）と、永井一郎氏（大正11年卒）へ斎藤支部長から表彰状と記念品が贈られ会場からは、労をたたえるあたたかい拍手が続いた。

（1頁より続く）し、他に対馬良光校内理事（第四十回生）も札幌在住同窓生と連絡をとりあっています。東京に続いて札幌にも支部をつくろうという気運が盛り上がっていることは心強いことです。

「札幌白楊だより」を加えて三紙を同窓会員一同にお届けする日こそ活発な同窓会活動を展開できるのです。皆に喜ばれる同窓会名簿の作製もこうした活動の支えがあってはじめてできるものではないでしょうか。

「東京白楊だより」を高く評価し、絶えることなく発行されることを期待して祝辞とする次第です。

各期有志の努力の結晶

この日の白楊ヶ丘同窓会東京支部総会は、旧制の函館中学校卒業生を会員とする〃在京函中会〃と新制の函館中部高校卒業生を糾合したものだ。

開催までに、五十人をこえる各期の有志がなんども会合を重ねた。伊東克郎氏、三国比左男氏（前出）佐々木順一氏（昭和26年卒）を中心に、福津達男氏（前出）、小泉龍彦氏（昭和25年卒）の協力をえて、幹事諸兄が案内状の作成、コピー、発送や、当日の受付けから音楽・写真・記録と、それぞれの分担を決めてその任にあたった。

冒頭の同窓会旗入場を含めた会の進行のディテールは、佐々木氏の演出に負うところが多かったと聞いている。

この会のハイライトである〃ラッフル〃には、数多くの先輩諸兄から寄付が寄せられた。その中での圧巻は、斎藤支部長の寄付による七宝の宝石箱（時価十万円）だろう。そのほかメルシャンワイン・王貞治選手サイン入りボール・二上達也九段サイン入り将棋駒などがあった。これらの品々を寄付して下さった諸先輩の好意もさることながら、寄付が実現するようアプローチした方々の努力を忘れてはなるまい。

二十数年ぶりで顔を合わせた人も

総会のあとは、片山明子氏（昭和27年卒）の司会で、大宴会となった。和・洋・中をミックスした料理は、それなりに工夫がこらされている。鮭のオードブル、コールドミート、チキンのフリッター、やき鳥、のり巻き、とバラエティに富み、〃さすが、松屋サン〃というべきか。つまり、会費が五千円にしては、ということだ。

酒も、日本酒・ウイスキー・ビールとたっぷり用意されていた。会場係りの話では、ジュース・コーラ類が予想より多く消費されたとのこと。〃それだけ、女性の参加が多かったということでしょう〃といっていた。

横田先生は、〃こんなに盛大でびっくりした。函館の総会もこれほどではない。白楊ヶ丘魂、東京で健在〃と、この日の成果を賞揚していた。

〃まことに愉快であった。同志の数が多くって心強い〃と三浦哲也氏（昭和8年卒）。

〃参加者の数が多いのでビックリ、何十年ぶりで旧友に会って、さらにビックリ〃――村本誠氏（昭和9年卒）

このような声のなかで、堤明司氏（昭和14年卒）は〃こんなに同窓生がいるとは思わなかった。若い人が中心になって会を運営するのはいいことだ。このような函館勢の力をビジネスの面で生かしてもいいのではないか〃と述べていたのが注目された。

もっとも、この意見に対しては、〃同窓会は、利害関係を持ちこまないからこそ長続きする〃（遠藤宏氏、昭和27年卒）のような意見もあった。

第1回東京支部総会で挨拶する斎藤支部長

立石正和氏（昭和38年卒）は、〃十年ぶりに、昔の仲間と会った。うれしい〃と卒直に喜びを表現し早川光江氏（昭和31年卒）は、〃みんなに会ったのは二十数年ぶり〃といっていた。

会は、賞品数三七〇点という大〃ラッフル〃の抽選でいよいよ盛り上がり、司会の片山氏にひきいられた元・現美女が賞品の受け渡しに興をそえた。（昭和27年卒菊池範也記）

〃一回目の総会をふり返って〃

昭和三十六年卒　越後谷　宏

正直言って驚いた。

電話口から、〃白楊ヶ丘……。函中……。〃とここ十五年来、余り使った事が無く、従って懐かしさの方が先に立つ、そんな単語が聞えて来たのだから……。

昨秋、先輩から総会の案内を初めて頂いた時の事である。

引き続き総会開催のお手伝いの端に加えて頂く事になり、その準備集会へ出席して、又びっくり。

世間では花の中年、ヤング等という言葉とは縁遠く、太目の腹が気になり出した小生が、出席者の中では、三、四番目に若いのであ

る。

総会の日迄、小生、只、使い走りを二、三度務めただけではあったが、諸先輩諸氏の奮闘は目ざましく、困難な問題も次から次へと処理され、只々感心しているうちに無事当日を迎えたのである。

二時間程の会ではあったが、予想をはるかに上まわる盛大さで、久方ぶりと言うよりも、卒業以来初めて同期の連中にも会う事ができ、話がはずみ、ハコダテベンなぞ飛び出す頃には、時、戻り全員が函中生になったかの如く若やいだ雰囲気も漂った。

最後に校歌を唄っている最中、あの高校時代〃全校マラソン、修学旅行、早メシ、個性あふれる先生達……〃等、色々思い出された事だった。

帰途、同期生八、九名、相集い盃を交わしたが、酒等飲み合うのは、初めての事、本当に新鮮で、楽しかった。

近々再会を約し、又、同期会の開催等を話しながら別れたのだが、この様な一夕を持てた事も、総会の開催故であり、感謝している。

白楊ヶ丘同窓会東京支部結成総会

昭和五十二年十一月二十二日(火)
東京、平河町　全共連ビル6F
松屋サロン
会費　五千円
ラッフル券　一枚千円にて販売

ラッフル用景品寄贈者及景品一覧表

斎藤支部長(大正8年卒)　七宝宝石箱　1箱
北川有光氏(大正13年卒)　京伝の梅干　10個
ベニカンの漬物　10個
書籍2種類(各20冊)　40冊
伊東克郎氏(昭和21年卒)　バー　なりた　ボトル券　3枚
加藤和行氏(25年卒)　エメロン　シャンプー　60本
エメロン　リンス　60本
大久保博正氏(22年卒)　マンズワイン　15本
沼沢康一郎氏(24年卒)　巨人軍　王選手サインボール　3ケ
〃　〃　色紙　3枚
ヤクルト　若松選手サインボール　3ケ
〃　〃　色紙5枚
沼沢康一郎著　書籍　4冊
三国比左男氏(24年卒)　タバコ5ケ入　20箱
清酒(1.8ℓ券)　8枚
二上達也氏(25年卒)　将棋板及びコマのセット3組
(二上達也箱書き付)
納代正信氏(24年卒)　スープ皿セット　2組
コーヒードリッパーセット　10組
竹沢喬氏(25年卒)　鮭缶詰　48缶
小林洋三氏(26年卒)　ウィスキー(ロバートブラウン)6本
滝川宏氏(25年卒)　東横劇場招待券　2枚入　10組
鹿内敬氏(26年卒)　ゴルフボール(レタスター)　3個入×8　24個
原寛氏(26年卒)　ビール券　2ダース入
佐々木順一氏(26年卒)　アートコーヒー(250g)　100箱
エバラ　焼肉のたれ　120本
ハンバーグのたれ　100本
グリコワンタッチカレー　120箱
書籍　西遊記　全8巻
水滸伝　全3巻
敵中横断三百里　12冊
大石壮平氏(27年卒)　ネッスルコーヒー(ワンパック)18組
遠藤宏氏(27年卒)　ゼブラボールペン
(二千円のもの)　5本
大江博氏(27年卒)　ワイシャツ　6枚
斎藤広孝氏(27年卒)　ペンダント　3個
大沢勘八氏(28年卒)　スカート布地　7本
越後谷宏氏(36年卒)　ゴルフボール　2個入×3　6個
鈴木三規氏(37年卒)　体温計　100本
景品用の手さげ袋寄贈者
小泉龍雄氏
松屋デパート用　200枚
三国比左男氏
タバコ峰キャンペーンパック　200枚

白楊ヶ丘同窓会東京支部役員一覧表

（七八・七・二〇現在・敬称略）

東京支部長　斎藤　鎮雄（大8卒）
副支部長　北川　有光（大13卒）
副支部長　西原林之助（昭11卒）
会　計　堤　明司（昭14卒）
〃　三国比左男（昭24卒）
監　査　大河原雄三（昭2卒）
〃　福津　達男（昭25卒）

顧　問（4名）
阿部　良平（大6卒）
永井　一郎（大8卒）
和田　真一（大11卒）
田中　清玄（大13卒）

◎印　常任理事

理　事（37名）
◎酒井　忠治（大15卒）
小畑　文雄（昭3卒）
荒川　正夫（昭4卒）
永田久右ヱ門（昭5卒）
岡田不二雄（昭6卒）
三ッ谷信栄（昭7卒）
宮本　武雄（昭8卒）
松原　竹造（昭9卒）
福田　次助（昭10卒）
前田　正彦（昭12卒）
太刀川善弥（昭13卒）
三上　佑（昭14卒）
菅原　茂夫（昭15卒）
笹島　正秋（昭16卒）
◎鎌田　実（昭17卒）
池田　和行（昭18卒）
石川　善正（昭19卒）
吉田　治作（昭20前卒）
松崎　醇一（昭20後卒）
◎伊東　克郎（昭21卒）
沼沢康一郎（昭24卒）
◎小泉　龍彦（昭25卒）
◎佐々木順一（昭26卒）
後藤　泰雄（昭27卒）
大沢　勘八（昭28卒）
黒川　陸郎（昭29卒）
◎佐藤美江子（〃）
◎野村　実（昭30卒）
渋谷　昌平（昭31卒）
真船　昭（昭32卒）
北原耕太郎（昭33卒）
三上　英男（昭34卒）
荒井　浩（昭35卒）
越後谷　宏（昭36卒）
大越　陸夫（昭37卒）
荒井　正治（昭38卒）
天明　恒男（昭39卒）
佐賀　達郎（昭40卒）
富田　寿明（昭41卒）
高木　隆（昭42卒）
佐野　実（昭44卒）

白楊ヶ丘同窓会東京支部会計報告書

53. 10. 17　現在

収入 区分	金額(円)	備考	支出 区分	金額(円)	備考	
総会会費	1,800,000	@5,000×360人	総会準備費	87,240	規約原案等印刷	14,500
					プログラム印刷	30,690
寄付	110,000	斎藤鎮雄氏			ラッフル券印刷	6,850
		和田貞一氏			案内状印刷	10,000
		北川有光氏			名札、ゴム印等	25,200
		小畑文雄氏	総会経費	1,588,090	マツヤサロン支払	1,505,900
					ウイスキー持込	29,000
ラッフル券売上	518,000	@1,000×518枚			功労者記念品 @15,000×3	
					同　感謝状等	8,190
名簿売上	102,000	@3,000×34冊	名簿代	120,150	本部へ @2,000×60冊＋手数料150	
			総会記録費	39,110	写真、録音テープ、アルバム等	
			本部総会派遣費	29,820	伊東常任幹事出席航空賃(東京→函館)	
			香典	10,000	川原田顧問（伊東常任幹事持参）	
			名簿印刷費	6,000	役員一覧表印刷	
合計	2,530,000		合計	1,880,410	繰越　649,590.−	

函館中学校校歌（同窓会歌）

第二高等学校教授
土井晩翠 作詞
東京音楽学校教授
岡野貞一 作曲

一、玄冥の北の一道
関門の岸に臨みて
青春の薫にしるく
基おく育英の場

二、集い寄る千余の子弟
人生の花の綻び
身を鍛え心を練りて
向上の一路を辿る

三、宇賀の浦万頃の水
駒ヶ岳千仞の山
微を積みて高きに至り
滴より空をもひたす

四、形ある無言の教
仰げ我が紅顔の子等
業成らば双の肩の上
興国の運も負えかし

五、母校の名子弟の誉
花と香と常に伴う
任重く道の遠きを
嗚呼健児勉めざらめや

函館中部高等学校校歌

函館中部高等学校教諭
藤原直樹 作詞
函館中部高等学校教諭
酒井武雄 作曲

一、火柱のはためく峰も
年古りて緑の臥牛
宇賀の浦風の砂山
波よせてくずれ流るる
見よや物なべて
うつろふ
窮みなし流転の相

二、北の国雪深けれど
その底に草は芽ぐめり
野山荒れ鳥潜めども
やがて来ん春の光に
万象の蘇る見よ
ここにあり不滅の生命

三、白楊のさやめく丘辺
秋深き梢仰げば
冴え渡る銀河の彼方
幽けくぞ星雲燃ゆる
胸に満つ久遠の思い
遙かなり真理の彼岸

四、限りなき流転の中に
生命あり不滅の学び舎
聞けや今窓の外遠く
新潮の入りくるひびき
よしさらば若人われら
踏まんかな希望の門途

設立総会実行委員会組織

設立総会実行委員長
伊東克郎（昭和21年卒）
（総合司会を兼ねる）

- 総務―幹事　三国比左男（24年卒）
  - 案内係（2名）
  - 受付係（10名）
- 会計―幹事　福津達男（25年卒）
  - 2名（入場）会費担当（1名）
  - ラッフル券経理担当（1名）
- 会場設営―幹事　小泉龍彦（25年卒）
  - 委員（2～3名）
- 運営―幹事　佐々木順一（26年卒）
  - （運営担当小委員会）
  - 式典委員（2名）　北原耕太郎（33年卒）
    - 3名（ライト担当1名）三上英男（34年卒）三上洋一（34年卒）
  - 同窓会旗委員　旗手及護衛（5名）
    - 高木隆（42年卒）　他2名
  - 音楽委員（2名）　大越陸夫（37年卒）
    - 花海吉夫（40年卒）
  - ラッフル券委員（10名～12名）　越後谷宏（36年卒）
  - 司会（パーティ担当）　片山明子（27年卒）
  - 記録　記録作成　1名　菊池範也（27年卒）
    - カメラ　1名　荒井一興（38年卒）

「東京白楊だより」創刊号
発行・白楊ヶ丘同窓会東京支部
編集人・佐々木順一　アシスタント・菊池範也
連絡事務所・〒154東京都世田谷区野沢4―24―7津軽ビル
㈱販売促進代行内　☎(424)5551
印刷・㈱サン・エポック・〒160新宿区新宿2―7―7☎(354)8888